

日本各地で麻疹の発生が報告されています！

春から新生活が始まり、外出の機会や人との交流も増え、感染症にかかるリスクが高まります。最近、「麻疹（はしか）」の発生が日本各地で確認され、特に15歳～50歳の学生や働き盛りの若い世代に多くみられています。また、インドネシアをはじめとする麻疹が流行している諸外国からの持ち込み（輸入症例）も確認されています。今回は、「麻疹」とその特徴的な症状が似ている「風疹」についても併せて紹介します。



麻疹・風疹はどのような病気か？

麻疹

発症～4日ほど

カタル期

高熱、咳、鼻水など

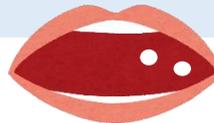
感染力が非常に強い

感染源：麻疹ウイルス
感染経路：空気、飛沫、接触感染
発症までの期間：10日～12日

5日～8日ほど

発疹期

口の中に小さな(約1mm)白い発疹ができる。熱は一度下がるが、半日程で再び上昇し、体中に赤い発疹ができる。



10日ほどで回復

回復期

発疹が褐色(色素沈着)になり、熱も下がる。

「かぜ」症状＋「発疹」がでたら必ず受診！

風疹

発症～2日ほど

カタル期

微熱、咳、鼻水、リンパ節の腫れなど

感染力が強い

感染源：風しんウイルス
感染経路：飛沫、接触感染
発症までの期間：2～3週間



3日～6日ほど

発疹期

発熱、発疹(全身の小さな赤い発疹)・(主に首、後頭部、耳の後ろ)

7日ほどで回復

回復期

発疹は消失し、熱も下がる。リンパ節の腫れは数週間続くことがある。

なぜ麻疹・風疹を注意すべきなのか？

麻疹や風疹は感染力が強いため、**集団感染のリスクが高いです。**
麻疹は肺炎、中耳炎を合併しやすく、1/1,000人程度の割合で脳炎を発症します。先進国であっても、死亡する割合は、1/1,000人と言われています。
また、**風疹は成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。**

妊娠を望まれる方とそのご家族様へ



妊娠中の風疹への感染は胎児に先天性異常を及ぼすこともあります。妊婦は生ワクチンを接種できないため、**妊娠前に本人・同居の家族が抗体検査を受け、抗体価が低い場合には、ワクチンを接種しましょう。**

※ 抗体検査や予防接種費用の助成については、お住まいの自治体ホームページ等でご確認ください。

予防するには？

- ① 麻しん風しん混合生ワクチン（MR ワクチン）の接種が有効です。**ワクチンを接種することで、合併症などの重症化予防も期待できます。**
- ② 基本的な感染症対策を心がけましょう。



2000年以前にお生まれの皆様へ

皆様は、予防接種を受ける機会がなかった世代や1回のみ接種世代、副反応への懸念から受診率が低かった世代です。免疫が不十分である場合があります。**特に医療・教育関係者や海外渡航を計画している方で、麻疹の罹患歴がなく、2回の予防接種歴が明らかでない場合、ワクチンの接種を検討してください。**

※この場合は任意予防接種ですので、費用は自己負担になります。

症状が現れたら？

医療機関を受診する前に、「症状」や「麻疹・風疹の患者との接触状況」等を必ず電話で相談してください。

受診の際は、**必ずマスクを着用し、公共交通機関を避けてください。**

自家用車や徒歩で移動しましょう。



※ 「麻疹」流行国から帰宅された皆様、報道されているイベントに参加された皆様へ

「麻疹」は感染から発症まで10日～12日です。数日経ってから具合が悪くなる場合があります。「症状」や「渡航歴」、「イベントへの参加状況」などを受診前に必ず相談してください。

※ 医療機関の皆様へ

海外渡航歴のある方や報道されているイベントへ参加した方などから、**有症状の相談があった場合は、診察前に保健所へご連絡ください。**

発行日:令和8年3月17日
発行元:福島県北保健所医療薬事課
住所 〒960-8012 福島市御山町8-30
電話 024-534-4108